

2020年10月7日 静岡県知事定例記者会見
三島駅南口東街区再開発事業に対する川勝知事の発言の抜粋

SBS テレビ記者：

三島駅前の再開発について伺いたい。今週、反対する市民団体が、地下水に悪影響があるとして市に公開質問状を提出した。知事は以前、駅前に高層マンションはふさわしくないという趣旨の発言があったが、今のこの再開発についての所感と、今後の県としての関わり方に考えがあれば聞きたい。

川勝知事の発言概要：

水問題は単に、大井川の問題だけではなく、富士山の地下水の問題もある。また、長年、源兵衛川についても、水問題について、市民団体が今までの経緯の中で頑張ってきた。その源兵衛川に注いでいる水源として、富士山からの地下水が関わっている。

その中で、三島市民の中に、その問題に対して憂いている方たちがいる。その場所に、極めて高いマンションを建てるということが持ち上がり、そのマンションを建てるのが地下水脈にどのような影響を与えるのか、こうしたことについて、十分な説明がされているのかということに対しては、疑問を持っている。

それから、マンションの工事で杭を打ち込む、地下水脈が変わることなので、いわゆるベタ基礎というか、杭を打ち込まないで、基礎を平たく置いて、その上に建物を建てるという、それめかなり高層な建物を予定されているようだ。それは地盤の揺れというか、地震の安全性はどうなのか、という心配はある。

また、上に重みがかかると、基礎の地下水脈に対して、どのような影響を与えるのか、最近の知見によると、中棟層のベタ基礎の1mちょっと下のところに、地下水が来るといふ、そういう危険性があるとの報告も受けている。

おそらく水問題について、三島の人々は、非常に敏感だと思うし、「水の都」とうたっている街でもある。とにかく、静岡県はリニアに関わる専門委員会において、水資源に関わる専門部会を設けている。また、生態系についても設けている。

同じように三島は、地盤や地質と建物との関わりや、水の循環にどのような影響を及ぼすのかといったような、多くの専門家が入って議論をしていただきたい。その議論や検討経過を公開して、市民の方たちが、これならば大丈夫、それならば危ないというような判断ができるような体制づくりが求められている。そういうことを、三島市の人たちには、是非とも、やっていただきたい。

三島市の今の対策検討委員会の委員の人たちを見ると、それぞれの団体の長が入っているようだが、それでは駄目だ、専門家と違う。やはり、科学的・技術的な知見を迫るためには、その道の専門家に委員に入っていて、議論するのが一番いいと思う。

基本的には、三島は、新幹線のターミナルになっていて、始発も三島から東京に向かう。言い換えると玄関口であり、玄関口にマンションが似合うかという点も甚だ疑問である。しかも高層マンションというのはなおさらだ。

楽寿園もあるし、少し下れば三嶋大社もある。あそこは日本の財産であるし、源兵衛川は2つの世界遺産に登録されている。なので、そこは、誰に対しても説明できるようにしなくてはいけない。

市民の方たちの立ち上がりを期待したい。なんといっても、やはり、科学者、どういう学者が必要なのかということについて、もし相談してもらえれば、我々の人脈を駆使して、三島のために働けるような学者を紹介したい。